



さいたま市立大宮南中学校

わかとり

学校教育目標

輝く個性 夢きらり

学校だより 11月号

令和7年10月31日(金)発行
〒330-0834

さいたま市大宮区天沼町2-362

TEL 641-1142 FAX 641-5356

自分にできることは何か

校長 亀井 隆 司

11月が近づいてもなお未だ半そでで過ごすことができるような日もあり、寒暖の差もあってか体調を崩してしまう生徒も多くいます。市内の学校ではインフルエンザ流行による学年・学級閉鎖が多く出ているようです。この季節の変わり目、皆様くれぐれもお身体にお気を付けください。

先日行った合唱コンクールには多くの保護者の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。合唱を仕上げるには多くの困難があったかと思いますが、それを乗り越えて積み上げた歌声はどのクラスも素晴らしく、文化センターのホールに響き渡るとともに心にも響くものでした。また、新人体育大会では、各部とも日頃の成果を遺憾なく発揮して、多くの部活で上位の成績を収め、県大会出場を決めました。文字通り南中生たちは今、文化の秋、芸術の秋、スポーツの秋を過ごしているところです。

さて、去る10月18日(土)、本校を会場として、大宮南地区の避難所運営訓練を実施しました。本校では3年生がこの訓練に全員参加し、自治会や地域の皆さんと共同で避難所を設置・運営する訓練を行っています(2年生は教室にて防災に関する授業を実施)。実際に行った訓練はHUG訓練(仮定の避難者を各箇所に振り分ける)、応急手当訓練、マンホール型トイレ設置訓練、炊き出し訓練、要配慮者搬送訓練です。生徒たちは慣れないことではありましたが、いざ災害が起こった時に必要な準備を熱心に行っていました。参加していた地域の方々からは「中学生たちがとても意欲的に取り組んでくれたので頼もしいです。」

「南中の生徒たちはよく動きますね。」「とても力強い子もたくさんいてびっくりです。」といった声が聴けました。もしもの災害時にも、中学生たちが避難所を支える大きな力として期待できると確信されたことと思います。

本校では、地震や火災を想定した通常の避難訓練だけではなく、シェイクアウト訓練、引き渡し訓練、竜巻発生を想定したシェルター作りを行い、様々な災害から自分の身を守ること(自助)を学んでいます。自分の命を守ることができるからこそ、次なる行動である他の人を助けること(共助)につながります。中学生となる南中生たちには少しずつ

「自助から共助へ」の意識を高めていってもらいたいと考えています。もちろん、災害時に中学生が全てを判断して行動させることで、危険にさらすことはできませんので、大人たちの指導が必要です。しかし、周囲の大人たちと共に共助の意識とスキルを養うことで「助けられる立場から助ける人へ」気持ちが育ってくれることを願っています。親鳥が運んでくれるエサを、口を開けて待っているヒナのようにではなく、自分で考え自分で行動し、巣立っていく「わかとり」としての成長を期待して…。



マンホール型トイレ設置訓練



HUG訓練



応急手当訓練